

【にんげん部門・PHP エッセイ賞】

あたりまえの日常

好文学園女子高等学校 2年 田村 凜奈

電車に乗っていたとき、私はある疑問が浮かんできました。

「あたりまえって何だろう。」

ボタンを押したら電気が使える。駅で待っていたら電車がくる。そんな日常にみなさんはあたりまえではないと気づいていますか。電気を使えるのは、電柱の劣化状況や設備の異常の有無を目視で確認したり、電気設備の測定などを行っている人がいてくれるから、電車が動いているのは、数日ごとに車両の台車やブレーキなどの状態と動作を確認しているからです。他にも、あたりまえに思っていることはあると思います。家で捨てたゴミは、家の前やゴミ捨て場に置いておくといつの間にか無くなっています。ゴミを回収してくれる人がいてくれるから、身近な人にも、いつもご飯や洗濯物、掃除をしてくれるお母さんなど私たちには見えないような所で生活を支えてくれている人がたくさんいるということに気づき、そして、感謝しなければいけないと私は思います。

そして、誰かに支えられている「あたりまえ」の日常に気づいたときに、自分も誰かの当たり前になれるのだろうかと考えようになりました。今の私にできることは、ほんの少しかもしれないけど、家の手伝いをしたり、困っている友達に声をかけて助けることならできると思います。小さなことでも、続けていくうちに、誰かにとっての「あたりまえ」になったらうれしいなと思います。毎日、電車がちゃんと動くのも、電気がつくのも、たくさんの人が見えていないところで頑張ってくれているからだと気づきました。あたりまえに見える毎日は、いろんな人のやさしさや努力でできていると知ってから、何気ない景色も少し違って見え、この気持ちを忘れずに、毎日を大切に過ごしていきたいです。私もそんなふうに誰かの役に立てる存在になれるといいなと思っています。